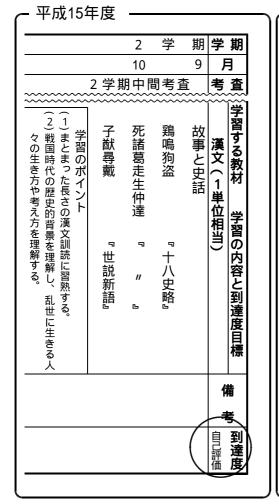
(6)前年度の見直しを図ったシラバス

シラバスは、実際に使用しながら、改善を加えることによって、より使いやすく、より活用されるものになっていきます。高等学校におけるシラバスの作成と活用は、まだ始まったばかりです。従って、取組の当初数年間は、継続的な見直しを行うことが大切です。

ポイント12

シラバスは実践を通して、改善を加えることによって、より効果的に活用されるようになります。

次の例は、同一校における平成15年度と16年度の国語科のシラバスを比較したものです。記入様式を縦書きから横書きに変更したり、到達度の自己評価欄を自由記述欄からABCのチェック欄に変更したりするなど、新たな工夫が加えられています。



期	分	学習する教	内容		/自己		
間	野	単元・教材	学習のねらいと 学習到達度評価項目				評価
第	漢	漁父辞	漁父辞			1	АВС
2	文	屈平	(1)便覧を使い、屈原、「楚辞」				\ /
学			や、戦国時代の概要を知る。				
期			(2)脚注を参考にしてあらすじ				
			をまとめることができる。				
中			(3)対句に注意して、屈原と漁				
間			父との主張を段落ごとに整理				
考			できる。				
查		*****	(4)屈原(儒家)と漁父(道家) と				
~~	~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~	~~~~~	~~~~	
2	自	学習への取	組につい	АВС	試験結果	と反	旨
学	己	て(自己評価	i)		得点	平均	匀点
期	評	(1) 本文	の書写、				
中	価	語句の意	味調べ、				
間	۲	現代語訳、 準拠					
考	反	学習課題ノ	− ⊦ ′				
查	省	書き下し文	(漢文)等		教科担当者 印		<u></u> 者 印